



第13期

2023年度

報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)



Providing trusted technology with sincere commitment

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の事業の概況をご報告申し上げます。

2024年6月

代表取締役社長 **北達 伊佐雄**

2023年度の経営成績は、売上高は23,352百万円(前期比3,207百万円[15.9%]の増収)となり、営業利益は509百万円(前期比414百万円[433.1%]の増益)、経常利益は636百万円(前期比240百万円[60.9%]の増益)、親会社株主に帰属する当期純利益は459百万円(前期比33百万円[7.9%]の増益)となりました。

売上高については、レジャーセグメントは前期(2022年8月31日)に営業を終了したパレットタウン大観覧車の売上剥落等により減収となりましたが、製造業向けセグメントは産業機械部品を除いて全般に好調、建設業向けセグメントも旺盛な建設需要を背景に好調に推移しました。また、2022年8月にグループに入った松栄電機株式会社及び松栄電気システムコントロール株式会社の売上高が通年で寄与しましたので、全体としては大幅な増収となりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、売上高の増加に伴い増益となりました。

セグメント別にご説明いたしますと、次のとおりです。

製造業向けセグメントでは、半導体不況や中国向け需要の減退により産業機械部品の製造及び組立が大きく落ち込んだものの、乳化・攪拌装置の製造において国内事業が好調に推移したことに加え、中国向けで大口の売上を計上する等順調であったこと、環境装置の製造及びメンテナンスが好調であったことから、増収・増益となりました。

建設業向けセグメントでは、コロナ影響やロシアのウクライナ侵攻を起因とする電子部品・部材の長納期化の影響が緩和され、高層ビル用を中心とする動力制御盤・分電盤・配電盤の製造や機械式駐車装置のメンテナンス・修繕及びリニューアル工事が復調した他、建設工事用エレベーターの製造及びレンタルや空調・給排水・衛生設備の設計及び施工等全ての事業が順調に推移しました。これに2022年8月に買収した松栄電機グループの売上高が加わり、大幅な増収・増益となりました。

レジャーセグメントでは、部品販売・メンテナンスは好調に推移したものの、遊戯機械設備の販売が少なかったこと、遊園地施設運営において2022年8月31日に営業を終了したパレットタウン大観覧車の売上がなくなったこと及び休日の天候不順により来客者数が伸び悩んだことから、減収・減益となりました。

この度、新たな中期経営計画として、2024年度を初年度とする「中期経営計画〈'24-'26〉」を策定いたしました。2023年度は、4ヶ年計画であった「新サノヤスグループ 中期経営計画2021」の3年目にあたりますが、コロナ禍の長期化や電子

部品・部材の長納期化の深刻化、原材料価格の値上がり等、想定外の状況下で終始「守りの経営」を行うことを余儀なくされました。足許では電子部品・部材納期の緩和、部材高騰に対する製品価格への転嫁も相応に進捗していることから、「守りの経営」から「攻めの経営」に舵を切り、経営基盤をより盤石なものにするべく、1年前倒しで新たな中期経営計画を策定したものです。

「中期経営計画〈'24-'26〉」では、2030年度にむかえる『新生サノヤス10周年』に当社グループが目指す姿を明確にした上で、2024年4月からの3年間でやるべきことをとりまとめ、当該期間を将来に向けての経営の基盤固めの3年間と位置づけ、注力分野への積極投資を行ってまいります。「中期経営計画〈'24-'26〉」の概要については、後掲をご覧ください。

なお、2024年6月25日開催の第13期定時株主総会にてご承認をいただきましたので、2024年8月1日付で資本金を60百万円に減資する予定です。これは、貸借対照表の純資産の部における勘定科目の振替処理であり、純資産額に変動を生じるものではなく、また、発行済株式総数や株主様の所有株式数、一株当たり純資産(BPS)に影響を与えるものではありません。当社では、2021年2月末に造船事業を譲渡した際に税務上で多額の繰越損失が発生しており、それを有効活用し成長資金に充当するために実施するものです。

また、「中期経営計画〈'24-'26〉」でお示している成長戦略を実現するための施策の一環として、2024年4月1日付で社長直轄の「イノベーション推進委員会」を設置しました。グループ全体として「従来にはない新しい製品やサービスの創出」「新たな価値観の提案」「新しい市場への参入及び新しい販売先や顧客の獲得」「自社だけでなく他と協力して新たな分野への進出」を検討実施してまいります。

2024年度の連結業績予想は、微増収ですが、積極的な投資を行うことによるコスト増や給与アップ等の人財投資を前倒しで実施することから減益としており、売上高235億円、営業利益1億円、経常利益2億円、親会社株主に帰属する当期純利益2億円を見込んでいます。

「『確かな技術にまごころこめて』～人と技術を磨き、新たな顧客価値を創出する～」の経営理念のもと、株主の皆様、お客様をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えられるグッドカンパニーを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**TOPICS
01**
**サノヤス・エンジニアリング株式会社が
エアブラストマシンを販売開始**

サノヤス・エンジニアリング株式会社では、従来からショットブラストマシンを製造・販売してまいりましたが、今般、新たにエアブラストマシン(ブロー・ブラスト)を開発し、販売を開始いたしました。

ブラストマシンは研掃材を対象に投射し対象の表面加工等を行う機械ですが、羽根車で研掃材を投射するショットブラストマシンと異なり、エアブラストマシンは空気の圧力で研掃材を投射します。中でも同社のブロー・ブラストは、ルーツブロー(外部圧縮を利用した容積式コンプレッサー)を利用しているため、一般的なコンプレッサー式のエアブラストマシンと比較して、使用電気を大幅に低減できます。

また、設置場所や用途、目的に合わせて装置を自在にカスタマイズできるほか、研掃材も多種多様な種類に対応可能です。

ブラストマシンはあらゆるものづくり産業に欠かせない機械であり、これからも製品ラインナップを増やし、お客様のニーズに応えられるよう努めてまいります。



ブロー・ブラスト

**TOPICS
02**
みづほ工業株式会社 小型乳化攪拌装置「LR-P1」開発

みづほ工業株式会社は、水と油のようにお互いに混ざり合わない物質の一方を微粒化して混ざり合わせる「乳化攪拌装置」を製造・販売しています。今般、製品開発を行う研究部門向けに手軽にお使いいただける小型の乳化攪拌装置として、卓上試験機「LR-P1」を開発いたしました。

同社のお客様である化粧品・医薬品等のメーカーでは、製品の生産工程にて乳化攪拌装置が使用されますが、その導入においては、製品を開発する研究部門の意向が強く反映されます。そのため、お客様の研究部門が製品を開発される段階から試験用乳化攪拌装置をお使いいただくことで、同社の乳化攪拌装置について理解を深めていただくのが本機の開発の目的です。すでに、化粧品・医薬品・化学品・食品等、幅広い分野で多くのお客様に本機を導入していただいております。本機を足掛かりとした受注も増えて来つつあります。



小型乳化攪拌装置「LR-P1」

**TOPICS
03**
イノベーション推進・技術開発強化に関する取り組みについて

中期経営計画(24-'26)に掲げる成長戦略を実現するための施策の一環として、2024年4月1日付で、「従来にはない新しい製品やサービスの創出」「新たな価値観の提案」「新しい市場への参入及び新しい販売先や顧客の獲得」「自社だけでなく他と協力して新たな分野への進出」などの検討・実施による更なる将来的な発展を目指すため、社長直轄の「イノベーション推進委員会」を設置しました。

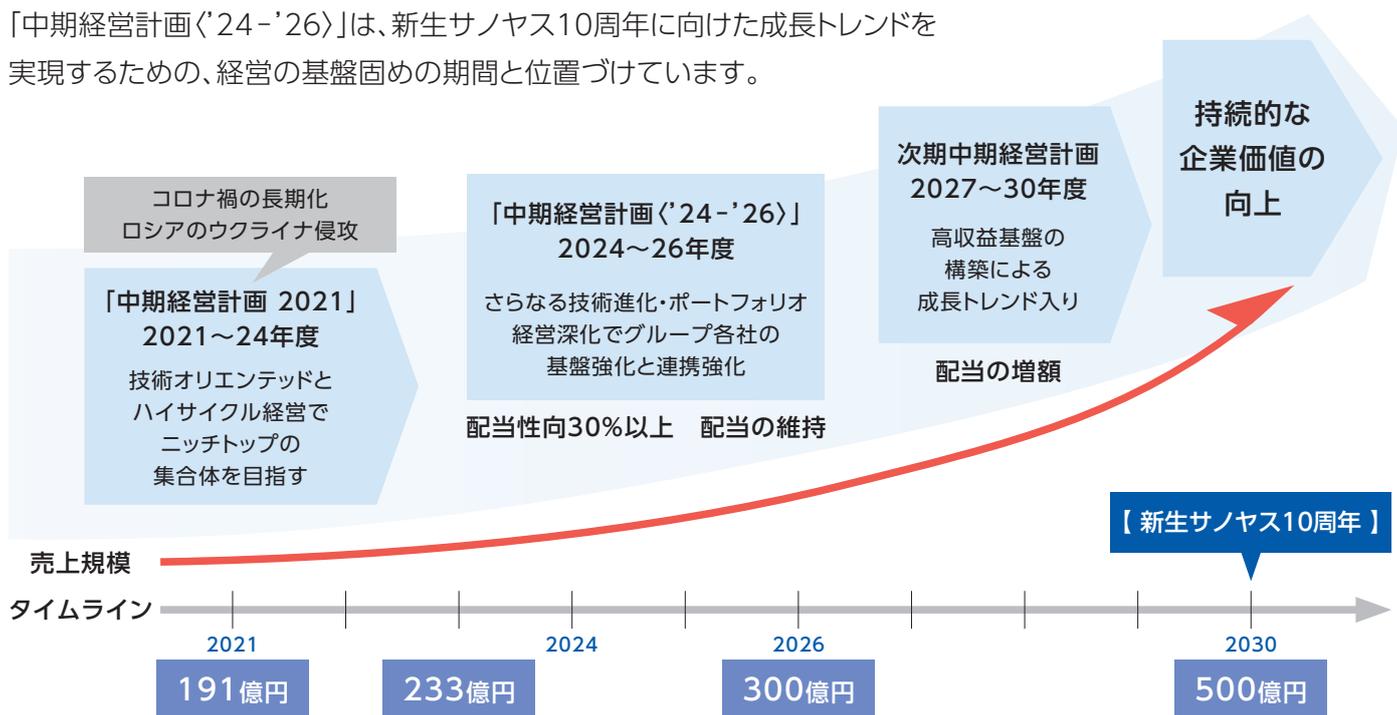
また、同年5月15日に、サノヤステクノサポート株式会社の技術開発支援の拠点「ものづくりラボ」を移転し、面積を従来の約1.7倍に拡張しました。試作品等の実験・評価だけでなく、開発・試作や実機検証を行うとともに、技術研修の場としても活用し、技術・人材の強化を推進します。

これらの施策によるイノベーション推進・技術開発強化によって、各事業の更なる成長を目指します。



中期経営計画〈'24-'26〉の位置づけ

「中期経営計画〈'24-'26〉」は、新生サノヤス10周年に向けた成長トレンドを実現するための、経営の基盤固めの期間と位置づけています。



中期経営計画〈'24-'26〉の骨子

事業成長 エンジン 強化	ソリューション強化	(1) 注力分野(産業インフラ・環境分野)の成長ドライブ ●産業インフラ・環境関連ソリューションの拡充にリソースを重点投下 (2) 既存事業の強化 ●成長分野へのリソースの優先配分と新製品開発による差別化戦略の実行 ●各事業分野においてメンテ・サービスの強化を通じて、顧客との信頼関係を更に強化 (3) 新規事業分野への進出 ●新マーケット開拓や海外展開に加え、M&Aによる新規事業分野への進出も展望 (4) カーボンニュートラル実現に向けた取組み推進 (5) 人的資本経営の充実 ●オペレーション強化のための人財確保の推進 ●働き甲斐の向上に向けた人事制度改革の推進
	イノベーション	
ESG経営の進化・深化		
事業基盤の強化		(6) 収益力アップに向けた事業基盤の強化 ●営業力、ものづくり力を強化することによる収益力の向上を実現

経営指標

	2023年度実績	2026年度計画 (中計最終年度)	2030年度目標 (新生サノヤス10周年)
売上高	233億円	300億円	500億円
営業利益	5.0億円	10.0億円	25.0億円
営業利益率	2.2%	3.3%	5%
ROE	5.1%	6%以上	10%以上

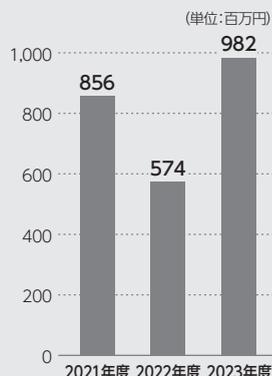
株主資本コストを上回るROEを確保し、資本効率を向上させることで、PBR1倍以上を実現する

製造業向け事業

■売上高



■営業利益



2023年度 **売上高** 100億71百万円

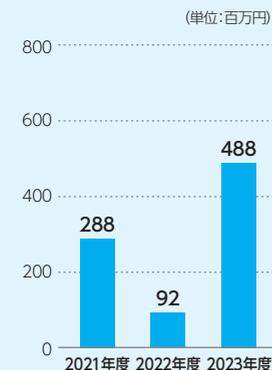
製造業向けセグメントにおいては、半導体不況や中国向け需要の減退により産業機械部品の製造及び組立が大きく落ち込んだものの、乳化・攪拌装置の製造で国内事業が好調に推移したことに加え、中国向けで大口売上を計上する等順調であったこと、環境装置の製造及びメンテナンスが好調であったことから増収・増益となりました。この結果、売上高は10,071百万円(前期比1,367百万円の増益)、営業利益は982百万円(前期比407百万円の増益)、受注高は7,540百万円(前期比1,304百万円の減少)、受注残高は3,728百万円(前期比1,544百万円の減少)となりました。

建設業向け事業

■売上高



■営業利益



2023年度 **売上高** 98億30百万円

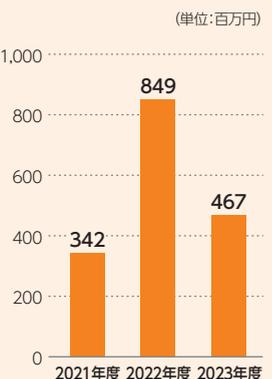
建設業向けセグメントにおいては、コロナ影響やロシアのウクライナ侵攻を起因とする電子部品・部材の長納期化の影響が緩和され、高層ビル用を中心とする動力制御盤・分電盤・配電盤の製造や機械式駐車装置のメンテナンス・修繕及びリニューアル工事が復調した他、建設工事用エレベーターの製造及びレンタルや空調・給排水・衛生設備の設計及び施工等全ての事業で順調に推移しました。これに2022年8月に買収した松栄電機株式会社の売上高が加わり、大幅増収・増益となりました。この結果、売上高は9,830百万円(前期比2,310百万円の増益)、営業利益は488百万円(前期比396百万円の増益)、受注高は10,526百万円(前期比960百万円の増加)、受注残高は9,100百万円(前期比1,616百万円の増加)となりました。

レジャー事業

■売上高



■営業利益



2023年度 **売上高** 34億50百万円

レジャーセグメントにおいては、部品販売・メンテナンスは好調に推移したものの、遊戯機械設備の販売が少なかったこと、遊園地施設運営において2022年8月31日に営業を終了したパレットタウン大観覧車の売上がなくなったこと及び休日の天候不順により来客者数が伸び悩んだことから、前期比減収・減益となりました。この結果、売上高は3,450百万円(前期比470百万円の減益)、営業利益は467百万円(前期比382百万円の減益)、受注高は2,520百万円(前期比1,239百万円の増加)、受注残高は1,198百万円(前期比752百万円の増加)となりました。

サノヤスグループ 中期経営計画〈'24-'26〉 (2024年3月期～2026年3月期)

サノヤスグループでは、2021年4月に、4ヶ年計画の「新サノヤスグループ 中期経営計画2021」を公表し、計画に基づく事業運営を行ってまいりました。

当該計画にはコロナ禍による業績影響は一定程度織り込んでいたもののロシアのウクライナ侵攻も重なり、電子部品・部材の長納期化の深刻化、原材料価格の値上がり等の想定を超える状況下、終始守りの経営を行うことを余儀なくされました。

足許では電子部品・部材納期の緩和、部材高騰に対する製品価格への転嫁も相応に進捗していることより「守りの経営」から「攻めの経営」に舵を切る所存です。これを機に、経営基盤をより盤石なものにするべく、中期経営計画期間を1年前倒しで、新たに「中期経営計画〈'24-'26〉」を策定いたしました。

グループ理念

「確かな技術にまごころこめて」

～人と技術を磨き、新たな顧客価値を創出する～

グループビジョン

- 社会課題の解決を通して、全ての人々の“喜び”と“満足”の実現に貢献します
〈株主・お客様・お取引先・パートナー企業・従業員・社会等〉
- お客様のニーズに適切に応え、絆を深めることによってお客様と共に成長できる企業であり続けます
- 誰もが未来志向を持ち、生き活きと働ける職場で社会の発展に貢献していきます

行動原則

1. 技術を極める
2. 誠実に行動する
3. 不断の努力をする
4. 感謝と思いやりの心を持つ
5. 仲間を信頼し、チーム力を最大化する

サノヤスグループの思い

社会課題を解決し、人々の社会とくらしを支える“喜び・満足”実現企業



連結貸借対照表 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2022年度末	2023年度末
資産の部		
流動資産	11,807	12,446
固定資産	13,895	14,803
有形固定資産	8,292	8,159
無形固定資産	1,050	1,116
投資その他の資産	4,552	5,526
資産合計	25,702	27,249
負債の部		
流動負債	10,395	12,025
固定負債	7,296	6,261
負債合計	17,691	18,287
純資産の部		
株主資本	6,122	6,464
その他の包括利益累計額	1,812	2,437
新株予約権	75	59
純資産合計	8,010	8,961
負債及び純資産合計	25,702	27,249

連結損益計算書 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2022年度	2023年度
① 売上高	20,145	23,352
売上総利益	4,900	5,321
営業利益	95	509
経常利益	395	636
税金等調整前当期純利益	466	775
当期純利益	425	459
② 親会社株主に帰属する当期純利益	425	459

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2022年度	2023年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 534	1,610
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 933	△ 804
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 597	△ 583
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	14
③ 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 2,046	237
現金及び現金同等物の期首残高	3,376	1,329
現金及び現金同等物の期末残高	1,329	1,566

ポイント

① 売上高

コロナ禍からの回復もあり、製造業向けセグメント、建設業向けセグメントが好調に推移し、前期比3,207百万円の大幅増収となりました。

② 親会社株主に帰属する当期純利益

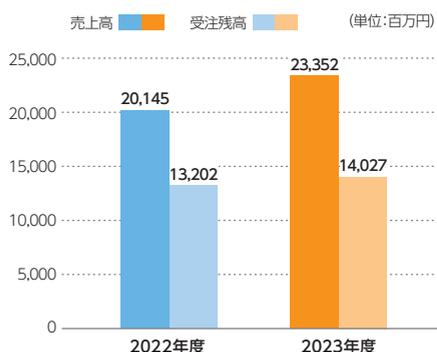
大幅な増収により営業利益が509百万円の増収となったことを主因に459百万円となりました。

③ 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)

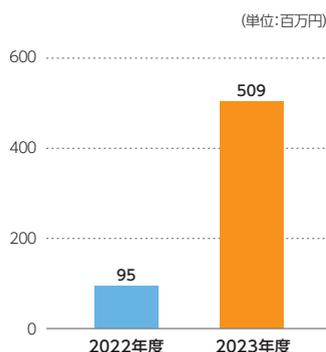
設備投資や有利子負債の返済を税金等調整前当期純利益及び減価償却費の範囲内で行った結果、237百万円の増加となりました。

連結財務ハイライト

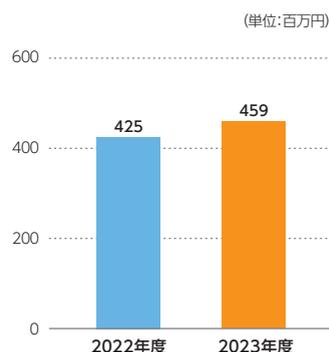
売上高・受注残高



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



第13期定時株主総会決議ご通知

6月25日開催の当社第13期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第13期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第13期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、期末配当は1株につき金5円と決定いたしました。
- 第2号議案 資本金及び資本準備金の額の減少の件
本件は、原案のとおり、2024年8月1日を効力発生日として、資本金2,568,367,502円、資本準備金1,185,920,355円をそれぞれ減少し、同額をその他資本剰余金に振り替えることが承認可決されました。

- 第3号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)7名選任の件
本件は、原案どおり上田孝、北達伊佐雄、大門淳、花田恵二、森薫生、高橋健二、副島寿香の7氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
- 第4号議案 監査等委員である取締役3名選任の件
本件は、原案どおり久下鉄也、山田茂善、山廣隆文の3氏が選任され、就任いたしました。
- 第5号議案 会計監査人選任の件
本件は、原案どおり会計監査人に監査法人アヴァンティアが選任され、就任いたしました。
- 第6号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
本件は、原案どおり副島寿香氏が選任されました。

期末配当金のお支払について

第13期期末配当金は、同封の「配当金領収証」により、払渡期間内(2024年6月26日から2024年7月31日まで)に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取り下さい。
また、振込先をご指定の方には、「配当金計算書・配当金のお振込先について」を同封いたしましたのでご確認ください。

会社情報

経営理念

「確かな技術にまごころこめて」

会社概要(2024年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	2011年10月3日
資本金	2,628百万円(8月1日付で60百万円に減資予定)
従業員	従業員数 55名 連結ベース 949名(臨時従業員209名を除く) 平均年齢 44.2歳
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号

株式情報(2024年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	33,814,782株
	株主数	14,191名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
サノヤス共栄会	2,452,500	7.26
株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.22
ストラクス株式会社	1,402,000	4.15
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,211,300	3.59
三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.33
住友不動産株式会社	1,120,000	3.32
水戸証券株式会社	996,000	2.95
三井住友信託銀行株式会社	650,000	1.92
個人株主	649,700	1.92
株式会社タクマ	534,000	1.58

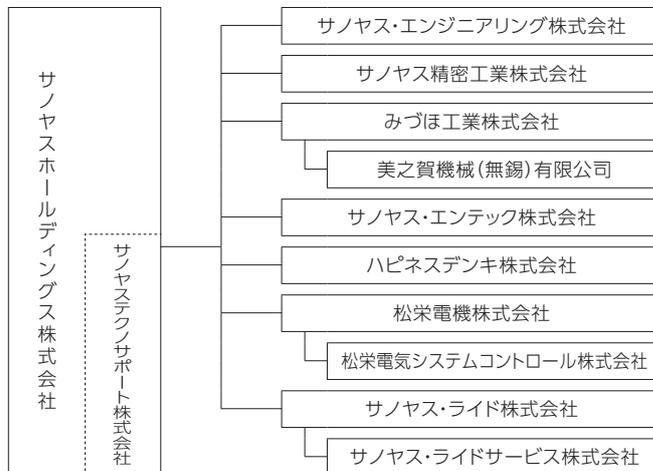
(注) 持株比率は、自己株式(47,248株)を控除して計算しております。

役員一覧

代表取締役会長	上田 孝	上席執行役員	西山 昌宏
代表取締役社長	北達 伊佐雄	上席執行役員	山本 伊佐雄
取締役常務執行役員	大門 淳	上席執行役員	田中 啓史
取締役執行役員	花田 恵二	上席執行役員	浅尾 洋光
取締役	森 薫生*	上席執行役員	中西 康之
取締役	高橋 健二*	執行役員	坂根 誠
取締役	副島 寿香*	執行役員	岩佐 久徳
取締役(常勤監査等委員)	久下 鉄也	執行役員	田代 昌利
取締役(監査等委員)	山田 茂善*		
取締役(監査等委員)	山廣 隆文*		

*は社外役員を表します。

サノヤスグループ一覧



サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

